

トップインタビュー

事業の質的転換による 最終ステージ 「成長実現」を果たしてまいります。

代表取締役社長

大川 正男



Q 当期前半の営業状況と成果について お聞かせください。

A ODEV社製品が予想を上回る好調を示し、
大幅な増収・増益となりました。

営業状況は前期からの好調が続いており、日米両市場で顧客層の拡大とともに、院内シェアも上昇しています。これは、医療現場において当社製品への評価が高

まり、ブランド価値が向上した結果と捉えています。また、エデュケーションプログラム（医師による医療従事者向けセミナー・勉強会等）への積極的な協力を通じて、当社への認知と信頼も高まっている状況です。

人工関節・骨接合材料・脊椎固定器具の主要3分野

で、いずれも米国子会社 Ortho Development Corporation社（以下、ODEV社）製品の寄与が大きく、日本国内では、人工股関節「オペーションヒップシステム」や、前期に発売した脊椎固定器具「Pagoda スパイナル システム」の売上が予想以上に伸び、骨接合材料においても、当社とODEV社の共同開発による「MODE」シリーズの売上が拡大しました。北米では、人工膝関節「バランスド ニー システム」を中心に、ODEV社製人工関節を使用する医師が増加しており、売上が伸びました。

ODEV社製品は、既存品が医療従事者からの信頼を獲得していることに加え、新製品も高評価を得ており、販売における相乗効果につながっています。

以上の結果、当第2四半期累計期間の連結業績は、期初の計画値を上回る大幅な増収・増益を遂げました。ODEV社製品の拡大により、売上高に占める自社製品比率は79.0%（前年同期比5.1ポイント上昇）、売上原価

率は28.2%（同0.7ポイント改善）となりました。

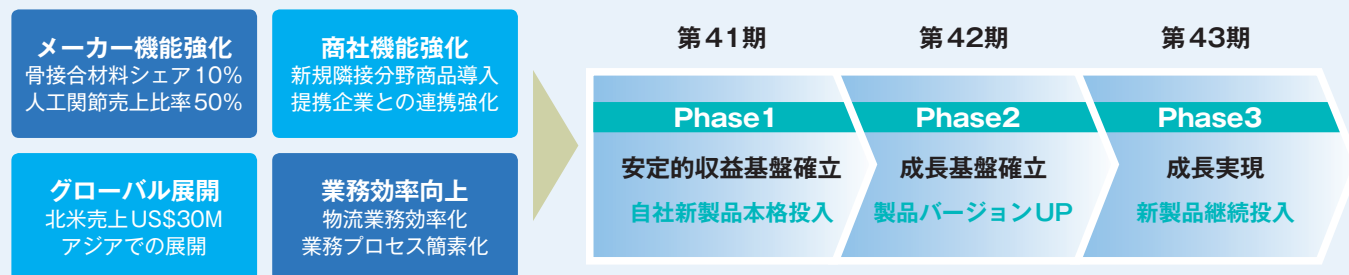
Q 更なる市場拡大への展開についてご説明願います。

A 新製品を武器に、本格参入できていない市場セグメントを攻めていきます。

ODEV社製品の開発・投入において、当期は特に人工関節の薬事承認取得及び上市が進んでいます。今年6月には、人工股関節の新製品「OVATION Tributeヒップシステム」が国内で薬事承認を取得し、9月より販売を開始しました。これまで当社が扱ってきた人工関節は、主に骨折患者等に対する骨頭置換（BHA）市場の製品が中心ですが、今後は、変形・変性した関節全体を切除して置き換える全置換（THA）市場への本格参入を目指しており、本製品もそのための特長を備えたラインナップです。

また人工膝関節では、膝の屈曲率の向上や耐摩耗性

中期経営計画「NEW MODE」



の改善を果たした「バランスド ニー システム Trimax」が、昨年11月に米国食品医薬品局の薬事承認を取得し、北米で好調な販売実績を上げています。

これからの当社は、引き続き日本人の骨格体系に適合した製品という開発テーマを追求しつつ、それと並行して、未だ本格参入できていない市場セグメントへの展開を進めるべく、医師にとっての使いやすさや耐摩耗性・耐久性、身体負荷を軽減する低侵襲性等を打ち出した新製品の開発に取り組んでいきます。

一方、北米市場では、これまで同様な人口が集中する東部海岸地域及び西部海岸地域を中心に、更なる販売拡大を目指します。北米人工関節市場の伸びが年2～3%と言われる中で、当社は前年比約30%の成長を遂げていますが、シェアとしてはまだまだ低く、拡大余地は極めて大きい状況です。

Q 当期後半の取り組みと通期の見通しについてお聞かせください。

A 通期業績予想を上方修正。全置換市場参入の第一歩を着実に進めていきます。

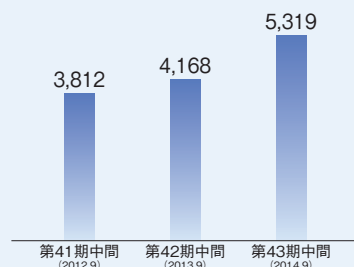
通期の連結業績予想は、第2四半期までの好業績を踏まえて上方修正し、売上高110億円（前期比16.3%増）、営業利益12億円（同81.4%増）、経常利益10億円（同110.2%増）、当期純利益5億5千万円（同91.9%増）を見込んでいます。この修正数値は、上期計画の超過達成成分を反映したものであり、季節要因による下期の症例数増加傾向を考えると、やや保守的な予想となっておりますが、今のところ慎重な計画判断を優先しています。

足もとの営業状況は引き続き順調に推移しており、「オーバーショーンヒップシステム」の拡大とともに、「Pagoda スパイナル システム」の伸びも期待できる見通しです。骨接合材料の「MODE」シリーズは、好調の既存品に加えて新製品を追加導入し、エデュケーションプログラ

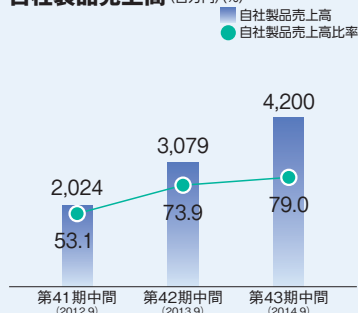
Financial Highlights

連結業績ハイライト

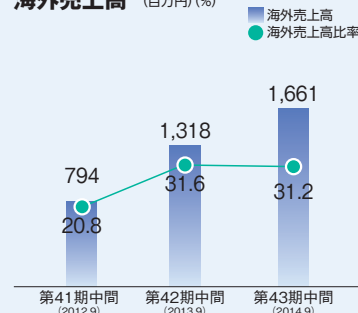
売上高 (百万円)



自社製品売上高 (百万円) (%)



海外売上高* (百万円) (%)



*ODEV社の決算末日は3月31日であり、海外売上高についてはODEV社の4月1日～翌年3月31日の12ヶ月間の販売実績を掲載しております。

ムへの積極的な協力を通じて、拡販を強化していきます。

「OVATION Tributeヒップシステム」による全置換市場への参入は、ある程度時間のかかる取り組みとなりますが、当期はその第一歩を着実に進めていきます。

Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A 中期経営計画を通じて、事業の質的転換を達成。次なる「成長実現」を目指します。

成長路線への回帰を目指し、事業の質的転換に取り組んできた3か年中期経営計画「NEW MODE」は、当期が最終年度となります。この3年間で当社事業は、大きな質的転換を遂げてきました。

当社の売上高は2003年のピークから10年間にわたり低落し、前期より増加に転じましたが、この2003年当時と現在を比較すると、売上高の自社製品比率は26%から79%に、海外売上高比率は10%から31%に大きく変化

しています。販社からメーカーへの変貌を遂げ、一定のグローバル化も進展してきました。

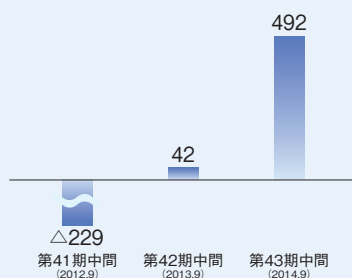
こうした転換により、当社は「NEW MODE」に掲げた「安定的収益基盤の確立」から「成長基盤の確立」までのステージアップを果たし、次のステージである「成長実現」に臨んでいるところであります。

これから策定を進めていく新たな3か年中期経営計画では、その実現に向けて積極的な成長投資を実行し、事業規模の拡大を目指してまいります。

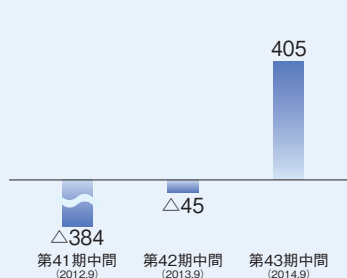
株主の皆様におかれましては、今後とも当社事業へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



営業利益(損失△) (百万円)



経常利益(損失△) (百万円)



四半期純利益(損失△) (百万円)

